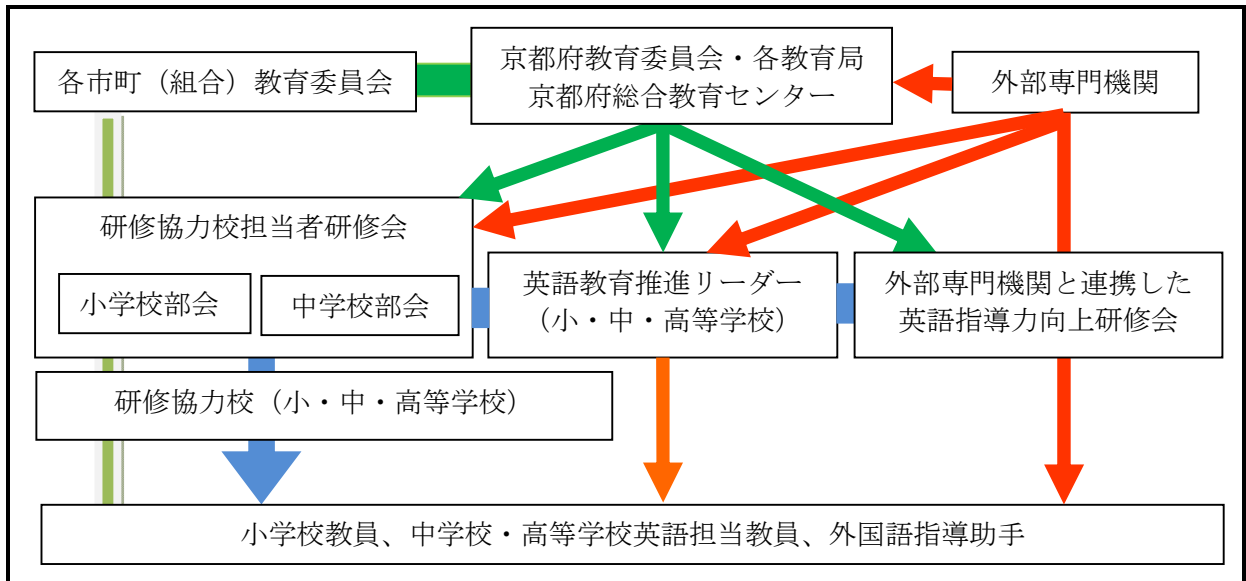


京都府英語教育改善プラン

1. 実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

①教員の英語力 求められる英語力を有する教員の割合

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
高等学校	目標値		65%	70%	75%	80%
	達成値	57.8%	58.6%	62.7%		
中学校	目標値		35%	40%	45%	50%
	達成値	29.8%	27.6%	26.0%		

- ・高等学校英語担当教員を対象に、英検準1級、1級の受験料を府費により全額助成し、外部検定試験の受験を奨励する。
- ・英語力が英検準1級程度に満たない中学校英語担当教員約100名を対象に、TOEICの受験とフォローアップ研修を組み合わせた英語力向上に特化した研修を実施する。
- ・英語教育実施状況調査を通じて、目標達成状況を把握する。

②生徒の英語力 求められる英語力を有する生徒の割合

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
高等学校	目標値		35%	40%	45%	50%
	達成値	30.2%	30.6%	29.2%		
中学校	目標値		35%	40%	45%	50%
	達成値	35.2%	40.9%	39.5%		

- ・高等学校においては、一昨年度及び昨年度実施したCAN-DOリスト研修会に基づき、各校CAN-DOリストを整備し、「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」について生徒が身に付ける能力を各校が明確化することによって、目標到達に向けた授業改善を進める。
- ・中学校の生徒の英語力については、府内研修協力校5校の中学3年生を対象に、英検I B Aを試行し、外部検定試験の活用について検証する。
- ・京都府学力診断テストを全中学2年生を対象に実施し、生徒の英語力を把握するとともに、テスト結果を検証し、中学校英語担当教員を対象に「京都府学力診断テスト活用講座」を開催して授業改善につなげる。
- ・英語教育実施状況調査を通して、目標達成状況を把握する。

③ **学習到達目標（CAN-DO 形式）の整備** 技能別学習到達目標（CAN-DO 形式）の整備状況（設定・公表及び達成状況の把握等の状況）

			平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
高等学校	設定	目標値		30%	90%	100%	100%
		達成値	16.5%	16.5%	15.1%		
	公表	目標値		10%	20%	30%	50%
		達成値	3.5%	6.8%	9.3%		
	把握	目標値		30%	50%	70%	80%
		達成値	10.5%	9.4%	10.5%		
中学校	設定	目標値		30%	40%	60%	100%
		達成値	17.1%	22.7%	42.3%		
	公表	目標値		20%	40%	60%	80%
		達成値	9.1%	8.3%	8.2%		
	把握	目標値		35%	40%	60%	80%
		達成値	13.1%	14.4%	12.4%		

- ・高等学校については、一昨年度及び昨年度実施した「CAN-DO リスト研修会」で作成の基本を固めたので、各校に CAN-DO リスト形式での到達目標の設定を奨励するとともに、平成 28 年度末までに CAN-DO リスト形式での学習到達目標を設定するよう進めて行く。平成 29 年度以降は CAN-DO リストを公表し、達成状況を適切に把握するよう整備を進める。また、研修協力校を一校追加し、CAN-DO リスト作成のモデル校として位置づけることによって他校教員が CAN-DO リスト作成のノウハウを共有できるようにする。
- ・中学校については、研修協力校を中心に、学習到達目標（CAN-DO 形式）設定の趣旨と、CAN-DO の視点を踏まえた指導と評価の改善についてさらに周知を図る。
- ・英語教育実施状況調査を通じて、目標達成状況を把握する。

④ **生徒の英語による言語活動** 授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合
半分以上の時間、英語による言語活動を行っている教員の割合

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
高等学校	目標値		35%	40%	45%	50%
	達成値	27.4%	24.7%	21.9%		
中学校	目標値		35%	40%	70%	100%
	達成値	35.2%	40.9%	50.3%		

- ・高等学校において、新規に追加した研修協力校における CAN-DO リスト作成研修を公開する等により、各校に CAN-DO リスト形式での学習到達目標の設定を奨励する。また CAN-DO リストにより設定した学習到達目標を用いて、パフォーマンス課題の評価規準の整備等を行うことにより生徒の英語を使ったコミュニケーション活動を重視した授業改善を進める。
- ・高等学校において、研修協力校を中心に授業改善の方策を研究し、外部講師と連携してモデル授業を各校に発信する。同時に授業後に研究協議を持ち、研修協力校のノウハウを協力校以外の学校にも波及させ、各校でのコミュニケーション重視の授業改善へとつなげる。さらに、年度末に成果発表会を行い、研究成果の共有を図る。
- ・英語教育推進リーダーの域内研修を通じて、生徒の英語による言語活動時間を増加させるノウハウを充実させる。高等学校においては、今年度は北部地域で残る 10 時間分の域内研修を継続して実施することで、域内全域での授業改善を目指す。中学校においては、新たに 50 名の英語担当教員を対象に、英語教育推進リーダー養成研修参加者を講師とする域内研修を実施する。
- ・英語教育実施状況調査を通じて、目標達成状況を把握する。

⑤ **パフォーマンステストの実施** 「話すこと」及び「書くこと」における外国語（英語）表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの

実施

			平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	
高等学校	スピーキングテスト	目標値 (回)	1	2	3	
		達成値 (回)	コミュニケーション英語Ⅰ	1.0		
			コミュニケーション英語Ⅱ	0.6		
			コミュニケーション英語Ⅲ	0.2		
			英語表現Ⅰ	0.6		
	英語表現Ⅱ		0.4			
	ライティングテスト	目標値 (回)	1	2	3	
		達成値 (回)	コミュニケーション英語Ⅰ	0.2		
			コミュニケーション英語Ⅱ	0.2		
			コミュニケーション英語Ⅲ	0.1		
英語表現Ⅰ			0.2			
英語表現Ⅱ	0.6					
中学校	スピーキングテスト	目標値 (回)	3	4	5	
		達成値 (回)	2.7			
	ライティングテスト	目標値 (回)	3	4	5	
		達成値 (回)	1.5			

- ・研修会等を通じて一層 CAN-DO リストの活用を奨励し、学習到達目標を明確にすることで、各校で効果的なパフォーマンス課題の実施を促進する。
- ・研修協力校においてパフォーマンス課題を意識した公開授業を取り入れ、外部講師の意見も参考にしながら、よりよいパフォーマンステストのあり方を研究する。
- ・京都府高等学校教育課程研究協議会において、パフォーマンステストにおけるルーブリックの研究を実施する。
- ・英語教育実施状況調査を通じて、目標達成状況を把握する。

⑥教員の英語使用 授業における、英語担当教員の英語使用状況 発話の半分以上を英語で行っている教員の割合

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
高等学校	目標値			50%	75%	100%
	達成値	28.4%	21.9%	18.6%		
中学校	目標値			50%	70%	100%
	達成値	22.9%	27.6%	30.5%		

- ・求められる英語力を有する担当教員の割合を高め、授業における英語使用を可能にする。
- ・英語教育推進リーダーの域内研修や、研修協力校での英語を使ったモデル授業等を通じて、英語による授業の進め方について研修を深める。
- ・高等学校では、特に英語の使用率が低いコミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅱ等の科目について、教科要請訪問や京都府高等学校教育課程研究協議会などを通じて指導の徹底を図る。
- ・京都府英語指導助手研修会・外国語指導助手指導力等向上研修会を通じて A L T の効果的な活用について研修する。
- ・英語教育実施状況調査を通じて、目標達成状況を把握する。

⑦小学校教員の英語力 相応の英語力を有する小学校教員の割合

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
教員総数	3588	3707	3569		
英語免許状所有者数 (割合)	181 (5.0)	184 (5.0)	201 (5.6)		
外部試験受験者数 (割合)	837 (23.3)	975 (26.3)	1070 (30.0)		
英検準 1 級程度以上取得済	42 (1.2)	30 (0.8)	27 (0.8)		

半年以上海外留学経験等有		55(1.5)	52(1.4)	58(1.6)		
人(%)						
⑧研修の充実 研修実施回数及び研修受講者数						
			平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
高等学校	実施回数(回)	目標値	11	11	11	11
		達成値	8	18		
	受講者数(名)	目標値	305	425	400	400
		達成値	380	435		
中学校	実施回数(回)	目標値	8	8	10	10
		達成値	12	13		
	受講者数(名)	目標値	400	400	400	400
		達成値	450	500		
小学校	実施回数(回)	目標値	3	3	10	10
		達成値	5	8		
	受講者数(名)	目標値	500	500	400	400
		達成値	600	400		
【高等学校英語担当教員 約 400 名】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修協力校による授業公開研修 (2回×4校) 受講予定者 160名 ・ 研修協力校による CAN-DO リスト作成研修 (3回×1校) 受講予定者 60名 ・ 研修協力校による合同発表会 受講予定者 50名 ・ 英語教育推進リーダー研修実習 受講予定者 20名 (府北部英語教員) ・ 京都府高等学校教育課程研究協議会 受講予定者 60名 ・ 英語指導助手研修会・外国語指導助手指導力等向上研修会 受講予定者 50名 ・ 高等学校英語科教育講座(大学連携) 受講予定者 35名 						
【中学校英語担当教員数 約 300 名】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語教育推進リーダー研修実習(英語教育推進教員養成研修) 受講予定者 50名 ・ 研修協力校研修会 受講予定者 5名 ・ 英語指導助手研修会・外国語指導助手指導力等向上研修会 受講予定者 60名 ・ 英語力強化研修会 受講予定者 100名 ・ 教育課程研修会 受講予定者 30名 ・ 総合教育センター研修講座 受講予定者 200名 						
【小学校教員数 約 3000 名】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語教育推進リーダー研修実習(英語教育推進教員養成研修) 受講予定者 50名 ・ 研修協力校担当者研修会 受講予定者 10名 ・ 大学等における長期派遣研修 受講予定者 2名 ・ 教育課程研修会 受講予定者 30名 ・ 英語指導助手研修会・外国語指導助手指導力等向上研修会 受講予定者 60名 ・ 総合教育センター研修講座 受講予定者 100名 						

(3) 研修の体系と内容の具体

【高等学校】

1 (研修名) 研修協力校による授業公開研修

(対象) 高等学校英語担当教員 約 160 名

今年度新規に一校加える形で研修協力校を域内で4校指定し、英語指導のモデル校の役割を担い、公開授業等を通してその研究成果を他校教員に向けて発信する。また、研修協力校における指導改善の進捗状況を随時把握するために、研修協力校には外部アドバイザーを配置し、適宜指導・助言を行う。外部アドバイザーには特に英語による授業の進め方、効果的なパフォーマンステスト及びその評価、CAN-DO リストの効果的な活用、といった事項を中心に指導・助言をいただき、平成 29 年度まで継続的に授業改善を進めていく。

各研修協力校は年間2回公開授業及び研究協議を行うこととし、他校教員が公開授業等に参加することで成果を共有し、参加者所属校に波及させることとする。また、年度末には研究発表会を行い、研究成果の共有を一層推進する。

2 (研修名) 研修協力校による CAN-DO リスト作成研修

(対象) 高等学校英語担当教員 約 60 名

今年度新規に追加した研修協力校において CAN-DO リスト作成研修を行う際に研修を公開することによって、域内の英語担当教員に作成のノウハウ、CAN-DO リストの活用について学習してもらう機会を設ける。平成 28 年度末までに CAN-DO リスト形式での到達目標の設定及び提出を求めるとともに、すでに作成済みの学校については、CAN-DO リストの見直し等も含めて促進していく。

3 (研修名) 研修協力校による合同発表会

(対象) 高等学校英語担当教員 約 50 名

各研修協力校のこれまでの取り組みをまとめ、成果と課題を明らかにするとともに、各校にその実践を普及させるために、年度末を目途に合同発表会を開催する。各研修協力校からの実践発表に加え、外部アドバイザーからの指導、助言をいただき、次年度以降の英語教育の改善につなげる。

4 (研修名) 英語教育推進リーダー研修実習

(対象) 域内で中核となる高等学校英語担当教員

(北部) 約 20 名 最終的には域内全英語担当教員約 400 名

中央研修参加者を講師として、域内で中核となる英語担当教員を対象に講習会等を行う。先進的な英語教育及び英語による授業に関するノウハウの共有及び教員の英語力向上を目的とする。また研修実習を受講した教員については、年度内に校内での伝達講習を義務づける。平成 28 年度は平成 27 年度に中央研修を修了したリーダーによって、府北部地域の英語科教員に計 10 時間の域内研修を行う予定 (4 時間分は昨年度実施済み)。

5 (研修名) 京都府高等学校教育課程研究協議会

(対象) 高等学校英語担当教員 約 60 名

域内英語担当教員 (一部私立学校の教員も含む) を対象に、学習指導要領に則した授業、評価の在り方を研究する機会とする。各校の指導状況の情報を交換し、共有することで、指導方法の改善に向けた取組を進めていく。

6 (研修名) 高等学校英語科教育講座 (大学連携)

(対象) 英語担当教員 約 35 名

京都府内の大学と連携して、府立高校英語担当教員対象に「授業力」を高めるための講義と演習を行う。

【中学校】

1 (研修名) 英語教育推進リーダー研修実習 (英語教育推進教員養成研修)

(対象) 中学校英語担当教員 約 50 名

中央研修参加者 2 名を講師として、府内の中学校英語担当教員を対象にカスケード研修を実施する。中央研修参加者 1 名あたり約 25 名の教員を対象に、3 日間で計 14 時間の研修を年度内に実施する。

2 (研修名) 研修協力校研修会

(対象) 研修協力校担当者 5 名

研修協力校において、CAN-DO の視点を踏まえた指導と評価の改善を進めるため、研修協力校担当者を対象に研修会を実施する。また、今年度新たに対象校の中学 3 年生に英検 I B A を試行し、外部検定試験の活用について検証する。

- 3 (研修名) 英語力強化研修
(対象) 中学校英語担当教員 100名
英語力が英検準1級程度に満たない中学校英語担当教員を対象に、TOEICの受験とフォローアップ研修を組み合わせた英語力向上に特化した研修を実施する。
- 4 (研修名) 教育課程研修会
(対象) 中学校英語担当教員 約30名
英語教育改革の動向を周知し、学習指導要領の趣旨に沿った指導や評価が実現できるよう、講義と研究協議を行う。
- 5 (研修名) 総合教育センター研修講座
(対象) 中学校英語担当教員 約200名
今求められる英語力を育成するために必要な授業力を高めるため、講義、演習等を通して、教科書の効果的な使い方、「中学校『読む力を伸ばす英文教材集』」の活用方法、計画的・系統的な「自己表現作文」の指導、入門期指導の充実、音声指導の充実、音読指導からアウトプット活動への充実等の内容を学び、英語指導力の向上を図る。

【小学校】

- 1 (研修名) 英語教育推進リーダー研修実習 (英語教育推進教員養成研修)
(対象) 小学校教員 約50名
中央研修参加者2名を講師として、域内で中核となる小学校教員を対象にカスケード研修を実施する。中央研修参加者1名あたり約25名の教員を対象に、3日間で計14時間の研修を年度内に実施する。受講者の研修成果の域内への波及を図り、中核教員を養成する。
- 2 (研修名) 研修協力校担当者研修会
(対象) 研修協力校・地域拠点研究校担当者、英語教育推進リーダー、大学長期派遣教員等
10名
外部専門機関と連携して、研修協力校担当者等の指導力の向上を図り、小学校における英語教育推進の核となる人材を育成する。
- 3 (研修名) 教育課程研修会
(対象) 小学校教員 約30名
現行の学習指導要領の趣旨に沿った外国語活動の指導をさらに推進するとともに、新しい英語教育の在り方について理解し、指導や評価の改善が図れるよう、講義と研究協議を行う。
- 4 (研修名) 総合教育センター研修講座
(対象) 小学校教員 約100名
新学習指導要領全面実施に向け、英語教育改革の動向について理解する。また、小中接続の在り方について研修を深める。

【小・中・高等学校共通】

- 1 (研修名) 京都府英語指導助手研修会・外国語指導助手指導力等向上研修会
(対象) 外国語指導助手 約100名、
高等学校英語担当教員 約50名、中学校英語担当教員 約50名
小学校教員 約60名
JTE、ALT協働で効果的な授業改善について検討するとともに今後の指導改善につなげる。ティーム・ティーチングの授業において、生徒のコミュニケーション活動を重視した授業が行えるようにする。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	【小学校】研修協力校・英語教育強化地域拠点事業担当者研修会①	玉川大学
5月	【高等学校】研修協力校 CAN-DO リスト作成研修① 【中学校】英語力強化研修① 【中学校】研修協力校・英語教育強化地域拠点事業担当者研修会 【小学校】研修協力校・英語教育強化地域拠点事業担当者研修会②	同志社女子大学・大阪成蹊大学 英語トレーニング専門機関 大学教授 玉川大学
6月	【高等学校】第1回研修協力校公開授業・研究協議 (山城高校、西乙訓高校、城南菱創高校、東舞鶴高校) 【中学校】英語力強化研修② (TOEIC IP 受験) 【小学校】研修協力校・英語教育強化地域拠点事業担当者研修会③	同志社女子大学・大阪成蹊大学 (一財)国際ビジネスコミュニケーション協会 玉川大学
7月	【小学校】研修協力校・英語教育強化地域拠点事業担当者研修会④	玉川大学
8月	【高等学校】英語教育推進リーダー研修実習(北部地域対象) 【高等学校】研修協力校 CAN-DO リスト作成研修② 【高等学校】京都府高等学校教育課程研究協議会 【ALT】京都府英語指導助手研修会 8/16・17 【中学校】英語力強化研修③④	(ブリティッシュ・カウンシル) 同志社女子大学・大阪成蹊大学 大学教授 英語トレーニング専門機関
9月	【小学校】研修協力校・英語教育強化地域拠点事業担当者研修会⑤	玉川大学
10月	【高等学校】第2回研修協力校公開授業・研修協議(～11月) (山城高校、西乙訓高校、城南菱創高校、東舞鶴高校) 【中学校】英語力強化研修⑤	同志社女子大学・大阪成蹊大学 英語トレーニング専門機関
11月	【ALT】外国語指導助手指導力等向上研修会 11/15,16 【高等学校】研修協力校 CAN-DO リスト作成研修③ 【中学校】英語教育推進リーダー研修実習①	大学教授 同志社女子大学・大阪成蹊大学 (ブリティッシュ・カウンシル)
12月	【小学校】英語教育推進リーダー研修実習①	(ブリティッシュ・カウンシル)
1月	【中学校】英語力強化研修⑥ (TOEIC IP 受験) 【中学校】英語教育推進リーダー研修実習② 【小学校】英語教育推進リーダー研修実習②	(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会 (ブリティッシュ・カウンシル) (ブリティッシュ・カウンシル)
2月	【高等学校】研修協力校研究発表会 【中学校】英語教育推進リーダー研修実習③ 【小学校】英語教育推進リーダー研修実習③	同志社女子大学・大阪成蹊大学 (ブリティッシュ・カウンシル) (ブリティッシュ・カウンシル)
3月		

その他の取組

【高等学校】英検 1 級・準 1 級助成事業

【中学校】教育課程研修会 8/5

【小学校】教育課程研修会 8/1

総合教育センター講座

【小学校】小学校外国語活動講座 5/27, 6/27

【中学校】中学校英語教育講座 7/1, 7/26, 8/23

【中・高等学校共通】英語教育講座 9/29

※政令市は除く

(様式10)目標管理書

都道府県等 教育委員会名	京都府教育委員会
-----------------	----------

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	No.	指標内容	H25	H26		H27		H28		H29	
			現状	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	57.8	65	58.6	70	62.7	75		80	
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	30.2	35	30.6	40	29.2	45		50	
	③	学習到達目標の整備状況 設定(%)	16.5	30	16.5	90	15.1	100		100	
		公表(%)	3.5	10	6.8	20	9.3	30		50	
		達成状況の把握(%)	10.5	30	9.4	50	10.5	70		80	
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	27.4	35	24.7	40	21.9	45		50	
	⑤	パフォーマンステストの実施状況				1	1.0	2		3	
		スピーキングテスト(回)				1	0.6	2		3	
						1	0.2	2		3	
						1	0.6	2		3	
						1	0.4	2		3	
		ライティングテスト(回)				1	0.2	2		3	
						1	0.2	2		3	
						1	0.1	2		3	
						1	0.2	2		3	
						1	0.6	2		3	
	⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	28.4			50	18.6	75		100	
	⑧	英語担当教員に対する研修実施回数		11	8	11	18	11		11	
	研修受講者数		305	380	425	435	400		400		

校種	No.	指標内容	H25	H26		H27		H28		H29	
			現状	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	29.8	35	27.6	40	26.0	45		50	
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	35.2	37	40.9	40	39.5	45		50	
	③	学習到達目標の整備状況 設定(%)	17.1	30	22.7	40	42.3	60		100	
		公表(%)	9.1	20	8.3	40	8.2	60		80	
		達成状況の把握(%)	13.1	20	14.4	40	12.4	60		80	
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	31.5	35	28.5	40	50.3	70		100	
	⑤	パフォーマンステストの実施状況				3	2.7	4		5	
		ライティングテスト(回)				3	1.5	4		5	
	⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	22.9			50	30.5	70		100	
	⑧	英語担当教員に対する研修実施回数		8	12	8	13	10		10	
	研修受講者数		400	450	400	500	400		400		

校種	No.	指標内容	H25	H26		H27		H28		H29	
			現状	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	⑦	相応の英語力を有する小学校教員の割合(%)								50	
	⑧	小学校教員に対する研修実施回数		3	5	3	8	10		10	
		研修受講者数		500	600	500	400	500		500	

独自	No.	指標内容	H25	H26		H27		H28		H29	
			現状	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値

※政令市は除く